頃にいたりては、數原通玄尙白、河野仙壽院通休、橘宗仙院元孝、村田長庵昌和、多紀安元元孝、林良適完熙、丹羽正伯貞機、望月三英君彥など云る國手ども多く出來れり、是ひとへに世の人材を養ひ玉ふ事のよくいたらせ玉ふによれるなるべし、其中にも、通玄尙白は、わきて御氣色にかなひ御藥の事を專らうけ玉はりしとなり、

〔天明記七〕己酉〇天明九年　二月、御醫師中江越中守殿御渡被成候御書付寫、此節何も出精之趣には候得共、猶又爲心得申達候、

一總而醫業を以て、世祿結構被成下候に付、家業之儀は格別出精可致義に有之候、殊に御撰擇を以、奥醫師被仰付祿位も被相加、別而之事に候、出精心掛も格別に無之候而は不叶事に候、奥醫師之調藥、諸家に而も相願候儀は、畢竟醫學醫業等格別之儀ニ付、取用ひ候事に候處、近來は、右之義仕來同樣に相成候哉にも相聞候、左候へば、此上彌々風儀不宜に至候而は、醫術之貴賤を不撰義も取失ひ、客來之取持も同樣に相成間敷にも無之、調藥之儀も、名目のみに成行、隱に他醫之療治を請候樣有之候而は、一己之身上不束成計に而、御外聞も不宜候義に候、殊更勤め向無此上御大切之儀に相拘り候事に候條、能々相心得、出精可被致候、平常御側近も被出、大奥江も相廻候身分之義に候得ば、身持等之儀は別而相慎み可被申候、

〔元治二年武鑑〕兩典藥頭柳間　乘輿白無垢著

半井刑部大輔廣明〇註略　今大路兵部大輔□〇下略

〔德川禁令考十七官醫長〕官醫長元和年間、京都ヨリ、今大路、半井ノ兩醫ヲ聘シテ典藥頭ニ爲スト、ノ傳說アレドモ、確書ヲ得ズ、然ルニ元寬日記ノ、元和二年正月五日ノ條ニ曰フ、秀忠公白書院ヘ御著座、僧侶獨禮、并今大路民部卿中里等總禮トアルヲ見レバ、此前既ニ幕下ニアルモノ疑ナシ、此齋世襲シテ近世ニ至ル、累代武鑑不載之、柳營秘鑑、官中秘策ニ其禮謁ノ班席ヲ揭グ、安役人班列武鑑曰、兩典藥頭半井出雲守千五百石、今大路右近大元醫中務千二百石、按ニ此兩家ハ、衆官醫ト同ジク、若年寄ノ支配タリト雖モ、官醫ノ薦ル藥劑能否ヲ撿シテ、其權自ラ一曹ノ長タリ、